

1 事業の報告と成果

感染症が沈静化し日常が戻ってはいるが気候変動は予断を許さない。まちづくりは多様化し、情報化がさらに複雑に進む中、目にみえる町家の利活用は今まで以上に注目されているが、ここ倉敷の中心市街地では、解体されるか収益を目的にした事業所や店舗へ改変されることが大半で、利活用には多くの課題が顕在化している。

そもそも町家は街道筋に集まった様々な職種の住民が地域とともに暮らしを営む場所であり、地域固有の風土的かつ歴史的に時間をかけて作り上げられたものである。また、まちは周辺環境と一体となった生活共同体で、家屋は生活と生業が一体の住居だったことも物理的空間の特徴であった。

激変する地域環境は外部からの多様な価値観の影響ばかりではなく内部での変化もあり、地域の価値体系を受け継ぐことを困難にしている状況が進んでいる。この年度は各地へ出かけ、専門家や活動家たちと交流できたことで、地域の大切なものを改めて見直す良い機会となった。特にこの地域での町家の再生利活用は住宅を中心にした暮らしの機能を再生することの大切さを改めて意識できたことが大きな成果であった。

「御坂の家」は観光需要が増したこともあり稼働率は高くなっている。「宮坂町の家」は地域・家庭になくはならない場づくりと活動を進め、「岡山子ども食堂支援センター」が入居して、ますます子どもたちの日常の支援が進むことが期待される。また、数件の町家の利活用も進みつつある。

「備中町並みネットワーク」に参加し10回目になり「町家deクラス」事業ではまち歩きを中心にプログラムを作り好評だった。しかし高梁川流域の地域づくりの現場は想像以上に課題が多いことを実感した。備中ゼミでは各地の地域活動の現場を知る良い機会となった。

高梁川流域連携事業で実施した「総社市商店街地区建築物残存調査」は今までの調査に加え空き家の調査も並行して行われ、具体的な利活用のきっかけが進み、「空き家・空き店舗利活用事業」では新しい試みが進んでいる。

倉敷シティキャンパスプロジェクトをノートルダム清心女子大学と連携、いくつかの拠点整備に関わり、好評のくらしきづくりマップも今年増刷した。

エフエムくらしきと市内企業の協賛を得て昨年引き続き「高校生トークセッション」では市内10校の参加で各高等学校の活動を知る良い機会が提供できた。

官民連携まちなか再生推進事業では多くの団体関係者を巻き込んで「くらし・き・になるエリアプラットフォーム」が設立され、未来ビジョン作りとプロジェクトも進んだ。

1) 組織の認知と組織への参加促進

- ・ブログ、facebook、など情報発信・メールマガジン・メディアでの発信
- ・フォーラム、シンポジュームのパネリスト参加、各種まちづくり委員会委員への参加

2) まちづくり活動の企画、協力、連携、提言、講演会など

- ・備中町並みネットワーク主催の「町家deクラス2023」「備中町並みゼミ」の企画構成、事務局担当
- ・まち歩きなどの企画・各種フォーラム、講演会、協議会に参加し、発表

- ・ 総社市総社商店街筋歴史的建築物残存調査支援
- ・ 空き家・空き店舗利活用事業連携
- ・ 教育機関からの講師依頼（倉商、倉敷南、倉敷高校、倉敷青陵高校、倉敷中央高校、倉敷古城池高校、倉敷芸科大、岡大大学院など）
- ・ 倉敷シティキャンパスプロジェクト、教育機関との連携（ノートルダム清心女子大学・就実大学）
- ・ インターンの受け入れ（岡山県立大学）
- ・ 高校生トークセッション（エフエムくらしき、高梁川流域学校との共催）
- ・ 官民連携まちなか再生推進事業では倉敷美観地区及び周辺地区未来ビジョン検討委員会に参加事務局を担当
- ・ 全国町並み保存連盟小樽大会：分科会パネリスト、各地からの報告で発表
- ・ 大学生の調査への協力（大阪大学大学院、東洋大学、追手門学院大学、周南大学、愛知教育大学、同志社大学大学院）

3) 地域資産の活用

- ・ 宮坂町の家（こども支援拠点）
- ・ 「御坂の家」事業継続
- ・ トワイライトホーム支援
- ・ 東町長屋の入居者支援
- ・ 新事務所（本町11-18）活用
- ・ 宮坂町の長屋の再生
- ・ その他町家利活用相談多数

4) 各種団体の取材の受け入れ

5) 各種団体への参加

- ・ 備中町並みネットワーク
- ・ 岡山NPOセンター
- ・ 倉敷東学区社会福祉協議会
- ・ 全国まち並み保存連盟（小樽大会）
- ・ 高梁川流域学校
- ・ 井上家住宅公開準備会
- ・ その他

6) 事務局・毎週火～日曜日開所（9：00～17：00）

倉敷市本町11-18

＊総会：5月27日

＊理事会：令和5年4月7日、5月12日、6月2日、7月7日、8月4日、9月1日、10月6日、11月3日、12月1日、令和6年1月12日、2月2日、3月1日

● 利活用

- ・ 倉敷町家トラスト事務所の利活用（毎月第1金曜日定例理事会）
- ・ 宮坂町の家（一般社団法人子ども支援センターつばさ岡山子ども食堂支援センター）

● 会員数（令和6年3月31日現在：200人、28社）

（内訳：正会員36人、法人賛助会員28社、賛助会員47人、準会員117人）

● 御坂の家運営

- ・ 利用日数 125日（宿泊滞在113日、貸室7日、見学5日）
- ・ 利用人数 350名以上（滞在256名、見学他100名以上）

● 委員・全国町並み保存連盟/常任理事（代表理事）

- ・ 備中町並みネットワーク/代表（代表理事）事務局長（副代表理事）

- ・倉敷東社会福祉協議会/事務局長（代表理事）
- ・倉敷の自然を守る会/監査（代表理事）
- ・高梁川流域学校/副代表理事（代表理事）
- ・倉敷美観地区及び周辺地区未来ビジョン検討委員会/代表（代表理事）
- ・くらしきになるエリアプラットフォーム/代表（代表理事）委員（成清理事）
- ・G7倉敷労働雇用大臣会合推進協議会/委員（代表理事）

●取材、新聞雑誌掲載

*ラジオ：FMくらしき、RSKラジオ

*新聞：山陽新聞、その他

*雑誌他、町並みかわら版

2 事業の実施に関する事項

その他、講演会、日常的なパネル展示、チラシ配布、など

1) 特定非営利活動に係る事業（概要）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 人数	受益対象者の範囲及び 人数	支出額 (千円)
町家再生・利活用促進事業						
	町家利活用事業	通年	本町11-18	7名	理事、会員、市民、来街者延べ300名以上	360
調査研究・情報収集及び提供						
	HP作成管理及びメールマガジン発信など	通年	本町11-18	3名	情報を受け取ることができる市民の不特定多数	40
まちづくり推進のための人材育成						
	ワークショップ、研修	通年	事務所、高等学校、大学など	6名	市民約30名、学生約100名	0
その他第3条の目的を達成するための事業						
	町家deクラス2023	11月3日～26日	倉敷市本町11-18、岡山県備中地域	6名	市民600名以上	0
	再生町家賃貸利活用事業	令和4年4月1日～令和6年3月31日	倉敷市本町11-16東町1-24.25など	5名	理事・会員・市民・来街者多数	3439

その他、講演会、チラシ配布、など

